

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	高齢者と社会政策（Aged Social Policy） 2013011-044					担当教員	米 山 宗 久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単 位 数	2	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要

介護保険制度に関する知識や高齢者の生きがいと健康づくりなどの社会政策について理解するとともに、今後の高齢者が直面する課題について適切な知見を得ることやその対策としての必要性を理解できるようになることを目的とする。さらに要介護認定者の半数となっている認知症高齢者について学び、今後日本が迎える超高齢社会に向けた課題や問題点を明らかにする。できるだけ発言の機会を設けるとともに、学修内容の理解を深めるために視聴覚教材も活用する。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力を養う。

③ 授業の進め方・指示事項

教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 高齢期の心身の変化を理解する。
- (ii) 高齢者に対するサービスを理解する。
- (iii) 介護保険制度の仕組みを理解する。
- (iv) 高齢者に対する支援・専門職を理解する。
- (v) 人生の最終段階における支援を理解する。

⑥ テキスト（教科書）

大塩まゆみ・奥西栄介（2018）『新・基礎からの社会福祉 高齢者福祉第3版』ミネルヴァ書房

⑦ 参考図書・指定図書

直井道子・中野いく子（2014）『よくわかる高齢者福祉』ミネルヴァ書房  
第8期長岡市高齢者保健福祉計画・介護保険福祉計画

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	40%	30%		20%		10%		100%
(i) 高齢期の心身の変化を理解する	8%	6%		4%		2%		20%
(ii) 高齢者に対するサービスを理解する	8%	6%		4%		2%		20%
(iii) 介護保険制度の仕組みを理解する	8%	6%		4%		2%		20%
(iv) 高齢者に対する支援・専門職を理解する	8%	6%		4%		2%		20%
(v) 人生の最終段階における支援を理解する	8%	6%		4%		2%		20%
フィードバックの方法	小レポートはプレゼンテーションを行い、小テストは解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
<p>社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。（履修者数により増減有）外部講師招聘時は予習として課題を提示する。</p>

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	人生における高齢期	テキスト	高齢期の課題や心身の変化を理解	30分
2	高齢者を取り巻く社会的状況	テキスト	高齢者人口や世帯状況を理解	60分
3	高齢者に対する制度とサービス (1)	テキスト	高齢者福祉制度の変遷を理解	60分
4	高齢者に対する制度とサービス (2)	テキスト	地域包括ケアシステムを理解	60分
5	介護保険制度のしくみ (1)	テキスト	介護保険の仕組みを理解	60分
6	介護保険制度のしくみ (2)	テキスト	介護予防と地域支援事業を理解	60分

7	介護保険サービス利用の実態	テキスト	居宅サービス・施設サービスを理解	60分
8	小テスト	自筆ノート	1回～7回目授業のまとめ	60分
9	高齢期を支える環境づくり	テキスト	福祉住環境整備を理解	60分
10	高齢者を支える専門職	テキスト	高齢者を支える専門職の種類と仕事を理解	60分
11	認知症高齢者(1)	テキスト	認知症の主な原因疾患を理解	60分
12	認知症高齢者(2)	テキスト	認知症ケアと支援を理解	60分
13	高齢者虐待に対する支援	テキスト	高齢者虐待と予防を理解	60分
14	終末期の支援	テキスト	高齢者が望む居場所とケアを理解	60分
15	小テスト	自筆ノート	9回～14回目授業のまとめ	60分

⑪ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型ALを採用する。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型ALでは、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

#### 実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、介護保険制度の基本的支援や政策、対象者別の意義や目的、活動内容や影響力、さらに活動における課題を学生に伝えることができる。

たとえば、認知症高齢者の鉄道事故、交通事故の対応、介護保険制度以外の生きがいつくりなどの必要性を伝えることができる。さらに実体験として地域住民主体の健康づくりの必要性も伝えることができる。

また、介護保険計画や高齢者保健福祉計画においても、介護の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。